

冬道での運転

積雪や凍結、吹雪による視界不良などが発生要因となる「冬型事故」が、平成22年11月から23年3月までに中央区では599件（北海道警察調べ）と市内10区で一番多く発生しています。

ここでは、中央警察署の塩入統括官からの注意点を踏まえながら、冬道運転のポイントをご紹介します。



札幌方面中央警察署 交通課 統括官
警部 塩入 信一さん

「ま・も・る」でストップ 冬型事故

ま～マナーの向上
も～モラルの醸成
る～ルールの遵守

交通事故の8割は、ドライバーの「うっかり」「ぼんやり」が原因で起きています。万が一、事故に遭ったときには、**負傷者の救護（119番通報など）や、二次災害の防止（車両の移動など）**をするとともに、**必ず警察に通報してください。**



☆走る前の準備

備えあれば憂いなし

人が衣替えるように車にも冬支度が必要です。スタッドレスタイヤや冬用ワイパーブレードへの交換はもちろんのこと、オイル（粘度の低いもの）やウインドウオッシャー液（寒冷地用のもの）、冷却液（濃度が高いもの）、バッテリーなどの点検を行い、必要があれば交換や補充をしましょう。



タイヤの状態を確認しよう

スタッドレスタイヤは溝の深さが命です。新品時から50%摩耗したら交換しましょう。また、使用していないタイヤでも、古いものはゴムが硬くなり十分な性能を得られないので、空気圧と合わせて専門店などで点検しましょう。

▼新品タイヤ



溝の深さはプラットホームの露出が目印
プラットホームはサイドの矢印が目印
(メーカーなどで異なります)

▲50%以上摩耗した古タイヤ

☆冬道を安全に走ろう

① ゆっくり発進

AT車では、ブレーキペダルから足を離すと車が動き出す「クリープ現象」を活用しましょう。



進まない...

お先に～

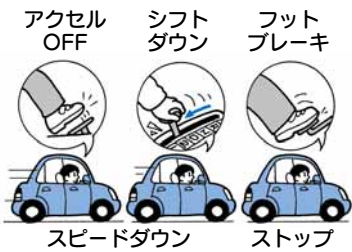
ブレーキOFF

アクセル踏みすぎ

AT車

③ エンジンブレーキ

減速・停止するときは、アクセルを緩め、ギアを下げ、エンジンブレーキを活用してスピードを落とし、最後にフットブレーキをソフトに踏みましょう。



アクセルOFF

シフトダウン

フットブレーキ

スピードダウン

ストップ

冬道は、とにかくスピードダウン！

財団法人全日本交通安全協会から、優良運転者として交通栄誉章緑十字銅章の表彰を受けた中央区在住のタクシー運転手 吉田さんに冬道運転での注意点を伺いました。



個人 吉田 TAXI
よしだ 英二さん

「冬道は、日向と日陰で路面状況が違います。路面状況への気配りと、スピードを出さないことが一番大事なんです。

いつも、仕事を終わると、1日の運転を振り返り反省をして、明日に備えています。」



天候・路面状況に合わせた運転をしよう



周りを確認して余裕のある操作をしよう

刻々と変化するのが冬道の特性です。スピードダウンと十分な車間距離（夏の2倍）に気を配りましょう。

また、濡れた道路でも日陰や橋の上、トンネルの出入口などは凍結している場合があるので特に注意しましょう。

少し目線を上げておくと、前方の交通状況（前車の動き、道路線形、信号機の変り目など）を早く確認することができ、「急」のつく操作（急ハンドルや急ブレーキなど）を防ぐことができます。